

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：32633

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24890249

研究課題名(和文)現代の多様な子ども達に向き合う養護教諭の養成教育とカリキュラムに関する認識調査

研究課題名(英文) Investigation of the teacher of Yogo's recognition about their educational background, attending to the today's children.

研究代表者

三森 寧子 (MITSUMORI, Yasuko)

聖路加国際大学・看護学部・助教

研究者番号：70633395

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円、(間接経費) 480,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は異なる養成機関(教育系・看護系・学際系)を経た養護教諭が受けてきた教育に関する認識を明らかにすることを目的とし、現職養護教諭13名を対象にインタビューを実施した。看護系では教育に関する学びや学校での実践が少ないこと、学際系では救急処置に関して不安が大きく、教育系では十分な学びを得ているなど、様々な認識と課題が明らかとなった。しかし、いずれの養護教諭も養成教育で学んだ知識や技術を活かし、専門職としてのポリシーをもって実践し、その実践における学びも重要であることがわかった。以上より、各養成機関の教育に差が生じている現状において、養成課程で学ぶべきことのさらなる検討の必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study aims to investigate the backgrounds of the teacher of Yogo, looking at the differences between teachers that have come from educational, nursing, and other institutions (nutritional science, physical education, social welfare and so on). Among the thirteen teachers that were interviewed, those from nursing institutions had little experience working in schools and had spent less time studying in the educational field. Teachers from institutions unrelated to nursing or education had concerns about first aid. Teachers from educational institutions felt that they had completed plenty of study. In all cases, it was clear that using the knowledge and skills acquired during training, working with a professional attitude, and learning from experience were important. Given the differences described above, this study has highlighted the need for further work on determining the appropriate courses and curricula for training the teacher of Yogo.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：地域・老年看護学

キーワード：学校保健 養護教諭 カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

社会の変化とともに子どもたちの問題も深刻化、多様化かつ複雑化している今日、養護教諭の役割もますます重要となっている。しかしながら、教育職員免許法による「養護に関する科目」は、1949年から大きな改正がないまま養護教諭は、大学・短期大学を含めると教育系、医療・看護系、保健・福祉系、家政系、学際系と多種多様な養成機関で養成されている。養成機関それぞれにおける問題はこれまでも指摘されているが、具体的な比較は行われておらず、かつ実践者の教育的背景を考慮した養成課程の教育に対する示唆が得られるような研究は行われていない。いかなる養成機関であっても高い資質能力をもつ専門職として、普遍的に従事できる養護教諭の教育のあり方を探ることが課題となっている。

2. 研究の目的

現行の教育内容で、現代社会において求められる、学校保健の中核的存在としての養護教諭になりうるのか、実際に養護教諭はどのような思いで働いているのだろうかという問いから、本研究では、実践者である養護教諭の自らが受けてきた養成教育への認識から現行のカリキュラムの問題点を探り、養護教諭養成課程におけるカリキュラムの検討を行うことを目的とする。

- 1) 異なる養成機関を経ている養護教諭に対して、受けてきた教育がどのように実践に影響しているか、インタビューを行い、それぞれが抱えている認識(考え方や思い、悩み)について記述、分析することで明らかにする。
- 2) 各養成機関の養護教諭免許取得のための現行のカリキュラムの内容を概観する。
- 3) 1), 2) より現行のカリキュラムの問題点を分析し、今後の養成教育のあり方を検討する。

3. 研究の方法

- 1) 異なる養成機関を経ている養護教諭に対して、受けてきた教育がどのように実践に影響しているか、インタビューを行い、それぞれが抱えている認識(考え方や思い、悩み)について記述、分析することで明らかにする。

養護教諭教育に関する文献や教育学分野のカリキュラムに関する文献検討により、用語の定義、研究方法の具体化、緻密化をはかると共にインタビューガイドを作成する。

作成したインタビューガイドの妥当性を検証するため、また研究者の面接技術を修練するために予備調査を行い、インタビューガイドの修正を行う。

異なる養成機関を経ている養護教諭に対し、受けてきた教育がどのように実践に影響しているかについてインタビューを行う。

- 2) 各養成機関の養護教諭免許取得のための

現行のカリキュラムの内容を概観する。

・現行のカリキュラムに関する資料を養成機関から収集し、養成機関別の特徴をみる。

- 3) 1), 2) より現行のカリキュラムの問題点を分析し、今後の養成教育のあり方を検討する。

・インタビューで得られたデータを養成機関別に分析し、現行のカリキュラムの特徴もふまえ、問題点を明らかにし、望ましいカリキュラムを検討する際の示唆を得る。

4. 研究成果

- 1) 異なる養成機関を経ている養護教諭に対して、受けてきた教育がどのように実践に影響しているか、インタビューを行い、それぞれが抱えている認識(考え方や思い、悩み)について記述、分析することで明らかにする。

研究参加者は、経験年数2~14年目(教育学系4名、看護系3名、学際系6名)計13名であり、経験年数(1~3年目、3~5年目、5~10年目、10年以上)と養成課程の学問的背景(教育学系、看護系、学際系)のバリエーションを確保しながらサンプリングを行った。調査期間は、2013年3月から2013年9月であった。調査内容は、養成課程で学んだことを振り返り、学んだことが実践に活かされていること 実践上で学んだこと

養護教諭養成課程における必要な学び、について自由に具体的に語ってもらった。面接内容は同意を得てICレコーダーに録音し、その逐語録よりコードを起し、意味内容を抽出し、カテゴリを生成し分析した。

養護教諭は養成課程において、【人間理解につながる人間のからだや心、社会のことなど養護教諭として必要な基本的な知識や技術】の学びをもって【現場を想定した演習など養護教諭としての模擬体験による実践力】を身に着け、【実習やボランティアなどで実際に身を置いて感じ取る学校現場という現実】や学校に行かなくとも【指導教員による子どもや教職員と関わった経験談や現職教員による授業を通してイメージする学校現場のこと】が実践の場で活かされていた。また、座学と学校現場を想定しながら学ぶ過程において、【教科書からは得られない、養護教諭としての心構えやポリシー】を得ることで養護教諭像を描き、【先輩や学生同士で関わり合うことによる他者との関係づくり】を学ぶことから学校組織において養護教諭として働く基盤を築いていることが明らかとなった。

養護教諭は、実践していく中で【実際に職務を遂行すること】が学びそのものであり、「実践に勝るものはない」ということであった。その実践を通して【子どもの実態】を学んでいたが、特に発育発達に関して机上の学びとのすり合わせをしていた。そのように子どもと関わる中では【養護教諭が教育職であ

る大切さ】を学び、教員間の中でも【組織の中で関係を作りながら連携を図ること】さらに【学校外との連携の大切さ】を学んでいた。何よりも、新人期にベテラン養護教諭と2人で実践した経験を持つ養護教諭は、【ベテラン養護教諭の実践そのもの】を目の当たりにすることで、養護教諭としての仕事を学び、養成課程での学びよりも有効であったと語っていた。また、ほとんど1校に1人配属される養護教諭は、【養護教諭同士のつながりを活かして自らの実践を振り返ること】で養護教諭としての自己のあり方を確認し、学びを深めていた。しかしながら、養成課程による特徴はなく、いずれの養護教諭も養成課程で学んだ知識や技術を基盤に、実践を通して専門職としての成長を支えていることが伺われた。

「子どもと関わる経験」や「現場の経験」をしておく必要性を語る養護教諭が多く、4週間程度の実習だけでは把握しきれない学校現場の実態を理解しておく重要性が示唆された。また、実際に発達障害など特別な配慮を要する子どもと関わることにより、「特別支援教育」を学んでおくこと、さらにヘルスプロモーションの視点からは、「健康教育」に関する学びの必要性を語る養護教諭が多かった。特に看護系、学際系の養護教諭による語りが多いことが特徴的であった。

2) 各養成機関の養護教諭免許取得のための現行のカリキュラムの内容を概観する。

web上に公開されている入手可能な養成機関のカリキュラムの内容について、教育系、看護系、学際系別に比較した(2012年11月検索)。学年ごとに履修する科目名と配置が明確に示されている大学を分析対象校とし、教育系5校、看護系10校、学際系6校であった。比較した内容は、免許法が指定する「養護に関する科目」に値する科目数と学年ごとの履修科目数を中心に概観した。

各養成機関で開講されている「養護に関する科目」については、以下のような結果となった。

	教育系	看護系	学際系
科目数	14~36	2~6	14~24
1年次	0~10	0~2	1~7
2年次	1~12	0~1	0~11
3年次	5~11	0~4	5~8
4年次	0~7	0~2	0~2

以上より、看護系は、教育系や学際系のカリキュラムに比べて免許法上の「養護に関する科目」において養護の専門科目の科目数が少ないことがわかった。また、教育系や学際系は1~3年次に講義・演習科目を履修し、4年次は実習に充てられていたが、看護系では、4年次にも講義・演習科目を履修して実習をするカリキュラムになっていた。科目名でみると、「学校保健」「養護概説」の2科目は必ずあるが、その他は看護学カリキュラムで開講されている科目による読み替えられ

ていた。

3) 1), 2) より現行のカリキュラムの問題点を分析し、今後の養成教育のあり方を検討する。

看護系出身の養護教諭は養護の専門科目や学校及び教育に関する学びが少ないこと、学際系出身の養護教諭は救急処置に関して不安が大きかったこと、教育系出身の養護教諭は養成課程において十分な学びを得ており、さまざまな認識を抱いていた。しかしながら、いずれの養護教諭も、学生のとときに必要な知識や技術、養護教諭像などの基盤を築き、教員になってからはベテラン養護教諭の実践や他校の養護教諭とのつながりにおいて自らの実践を振り返ったり、組織の中でいかに良好な人間関係を作るかに努力していたり、子どもや保護者の実態と向き合っていたり、その経験や実践の積み重ねにおいて、学校組織の一教員である養護教諭として働いていく自信を持っていたことがわかった。このことから、養護教諭にとっては養成課程における学びと、実践における学びが存在し、いずれも重要な意味をもっていることが示唆され、実践における学びについて探究するという新たな課題が見出された。

学問的背景の特徴としては、看護系は養護教諭に特化した専門科目の少なさにより養護教諭の職務を実践する機会が乏しいこと、学校現場に触れたり子供たちと関わったりする経験が少ないために子供たちの実態の理解が難しいことが推測され、カリキュラムを検討する上での課題と考えられた。

各養成機関で用意されているカリキュラムに差が生じている現状において、なるべくその差を小さくするべく読み替え科目の再検討が課題であり、養成課程で学ばなければならないことをさらに探究していく必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

三森寧子、実践に活かされている養護教諭養成課程における学び～現職養護教諭の養成教育への振り返りから～、第10回日本教育保健学会、2014年3月23日、山口大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三森 寧子 (MITSUMORI, Yasuko)
聖路加国際大学・看護学部・助教
研究者番号：70633395

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし